**事業提案書**

提案事業者名

・以下、審査の着目点に沿って提案内容を簡潔に、必要に応じて図や表、絵を用いて記載してください。

※別紙によることでも可。その場合提案内容欄に「別紙○参照」と記載してください。

・フォントサイズは10.5とし、記入枠は必要に応じて縦方向に広げて記入ください。

・本様式上の赤字斜字体部分は、削除して提出して下さい。

・副本には提案事業者名を記載しないこととしてください。

|  |
| --- |
| 基本情報 |
| 対象資格 | 資格の区分　□一等無人航空機操縦士　□二等無人航空機操縦士 |
| 機体の種類　□マルチローター　□ヘリコプター　□飛行機 |
| 限定変更　□無し　□目視内（→目視外）　□昼間飛行（→夜間飛行）　□最大離陸重量25kg未満（→25kg以上） |
| 登録講習機関での講習受講予定の有無 | □有　 | □初学者　□経験者（保有資格名：　　　　　　　　　　　　　　 　　） |
| □無 | 保有資格　□無　□有（資格名：　　　　　　　　　　　　　　 　　） |
| No. | 審査の着目点 | 提案内容 |
| １ | 【新規性】自社人材による無人航空機の活用実績の有無 | □あり　□なし*自社人材による無人航空機の活用実績の有無について、該当する項目に☑を入れてください。**なお、下記の場合は実績に含めない。**・ドローン事業者への委託による活用。**・千葉市外に拠点を有する事業所での活用。* |
| ２ | 【目的】技能証明を取得し、無人航空機を活用する目的が明確かつ本補助金の趣旨と合致するか。 | *対象となる業務の背景、目的、内容、及び課題を明確にした上で、技能証明を取得し無人航空機を活用する目的を記載してください。* |
| ３ | 【無人航空機活用の具体性】無人航空機の具体的な運用体制、手順及び方法が具体的に示され、実現が見込めるか。 | *・No.１で記載いただいた業務における無人航空機の運用体制、手順及び方法を具体的に記載してください。**・機体の種類がヘリコプター又は飛行機に該当する場合は、活用予定の機体が、遠隔操作及び自動操縦の機能が備わったものであることがわかる仕様書等を添付してください。* |
| ４ | 【業務の継続性・発展性】技能証明取得後も、同様の業務が継続的に実施され、発展する見込みがあるか。 | *今後見込まれる無人航空機活用業務の実施頻度、業務の広がり、波及先等を記載してください。* |
| ５ | 【市内での運用】技能証明取得後の無人航空機の運用は本市内であり、かつ市内産業の発展に寄与するものであるか。 | *無人航空機は本市内で運用されるか、市内産業の発展に寄与できるものか記載ください。* |
| ６ | 【証明取得による効果】技能証明を取得しない場合と比較して、コスト低減や作業効率の向上等の効果が見込めるものとなっているか。 | *・技能証明取得により得られる効果について、下記を参考に可能な限り数値で定量的に記載してください。数値で表せない場合は、何がどう良くなるのか、効果を具体的に記載してください。**・業務効率向上　　削減できる金額、時間、件数、人員、設備、材料等**・業務の高度化　　確認能力の向上等**・社会受容性向上　サービス対象者数、満足度等**・そのほか　　　　上記以外に得られる効果**・新しい効果を生み出す、又は効果を増大させる新規性や創意工夫点があれば記載ください。* |
| ７ | 【技能証明取得体制】技能証明を取れる体制が組織化・整備されており、技能証明取得に向けた手順及び方法が具体的に示され、取得が見込めるものとなっているか。 | *学習・訓練実施体制（学習・訓練時間を確保するための自主学習訓練体制）、学科試験及び実地試験に向けた学習・訓練手順及び方法を記載ください。* |
| ８ | 【技能の維持・向上】技能証明取得後も、対象者の操縦技能が管理され、技能の維持・向上が図られるものとなっているか。 | *技能証明を取得した後に対象者の技能をどのように管理し、維持・向上させていくか、施策を記載ください。* |
| ９ | 【工程管理】工程表は技能証明取得及び無人航空機を活用した業務の履行が見込めるものとなっているか。 | *技能証明取得及び無人航空機活用業務の実施に向けたスケジュールを記載ください。**例）令和〇年〇月〇日　登録講習機関での講習受講開始**同年〇月〇日　　　対象資格取得**同年〇月〇日　　　機体購入**同年〇月〇日　　　ドローンを活用した事業開始* |